



No.	申込団体名	確定額 (円)	自己評価		評価	
			事業内容	効果	関係課意見	審査会意見
4	宝塚広域ボランティア連絡委員会	298,000	<p>1. 第5回ご近所の底力 防災・減災取り組み展 【実施時期／場所】平成30年11月19日(月)～12月1日(土)／ぶらざこむ1 平成31年1月18日(金)～1月22日(火)／アピア1 【内容】①市内自主防災会、まちづくり協議会他防災・減災に取り組む団体の活動紹介 ②災害情報の収集方法 ③災害時要配慮者を含む多様な災害弱者と共に防災力を高めるには？等 ④地域での見守り活動事例の紹介:協力 社協地区センター 【参加人員】約300人</p> <p>2. 「誰もが主役の防災・減災取り組み事例集」の編集、発行 【実施時期】平成30年12月～平成31年3月。 【内容】過去5回の上記「取り組み展」等を通じて培った取り組み事例等を紹介する事例集を編集、発行。 作成に当たり、佛教大学後藤至功先生からのアドバイスとコメントをいただいた。 【配布先】災害時に福祉避難所となる施設、ボランティア活動センターが把握するセルフヘルプグループ及び子育て世代の集まり、等新たな防災の担い手になる対象や民生、児童委員協議会、まちづくり協議会等への配布。 【発行部数】500部</p>	<p>1. 第5回ご近所の底力 防災・減災取り組み展 今回初めての展示団体3団体を含む20団体の協力を得て、2会場にて展示を行った。地域の課題(高齢化率の上昇、マンションや戸建てによる住民性の違い等)と災害リスクを関連づける主体的な考察が地域の防災力の向上に有効であることや、集合住宅において、これまで別に活動していた自主防災会と管理組合が統合した防災組織となることで、住民にも分かりやすく、効果的な活動が期待される事例等を紹介することができた。これらを含み、本展示会によって、「防災・減災」活動への取り組み方の多様性と可能性の広がりを示すことができたと考えている。 また、本年初めて社協地区センターの協力を得て市内の「見守り活動」の事例を紹介した。このことは社協が本来「防災」をテーマに事業を行っていないとはいえない。災害時に最も有効な地域住民の繋がりを平時に構築していくうえで、サロンの運営や見守り活動の情報を市民と共有することは大変意義あることだったと評価している。地区センターからは、独居高齢者の安否確認や、避難誘導への備えとして、日頃から居宅訪問を担当している介護事業者等との連携の必要性などの示唆もあり、今後、地域での実践に繋がることの可能性も感じている。</p> <p>2. 「誰もが主役の防災・減災取り組み事例集」の編集、発行 本年5回目を迎えた「防災・減災取り組み展」では、地域住民の主体的な発意のもと、様々な取り組みが行われていることを「展示」という形で市民の皆さんに紹介して参りましたが、期間や場所が限定されており、もっと恒常的にこれらの取り組み事例を紹介、活用できることを目的に、この度「事例集」として編集する運びとなった。事例の収集においては、これまでに「取り組み展」等を介して交流を続けてきた地域の皆さんとの情報の共有や、新たな実施団体への取材等により掲載事例を収集した。また、編集にあたっては佛教大学後藤至功先生からのアドバイスを基に、掲載する事例を5つのテーマに分類した。その結果、同じ目的の為に多様な取り組みが可能であることや、段階的な取り組みの進め方等を表現できた。また、どのテーマにも災害時要援護者への視点が注がれており、殊に、「災害時要援護者支援制度」が制定される前から地域において独自に、支援を必要とする住民と支援できる住民とのマッチングに取り組んでおられる事例等では「地域力」によって住民の皆さんの命を守ろうとする気概を感じることが出来る。事例によっては行政、民間事業者等との連携により実現、継続可能なものもあり、多方面への働きかけが有効であることも示すことが出来た。今後、本事例集を参考に地域の課題に基づいた主体的な「防災・減災」への取り組みが始められたり、取り組み内容が深まっ</p>	<p>(総合防災課) 防災・減災取り組み展では、市内の自治会やまちづくり協議会の取組を紹介し、情報発信に努めていただいた。 地域によって世帯数や住民の年代の比率、災害のハザードも異なるが、それぞれの地域に合った取組を、地域ごとに工夫をしている点をわかりやすく展示されていた。また日程を変えて右岸地域、左岸地域の2会場で展示することで、より多くの市民が防災をより身近に確認できる機会となった。</p> <p>「誰もが主役の防災・減災取り組み事例集」では、1の取組をもとに、有識者を交え、事例を項目ごとに分けてカラー版のわかりやすい冊子を作成している。展示には来ることができないひとでも、当グループが今まで行ってきたボランティアによる活動や地域に沿った事例、意見などを手にすることが出来、また地域間の交流にもつながることから、地域の防災力の向上に貢献できたといえる。</p> <p>その他の取組においても、防災の知識のない市民にも親しみやすいイベントを打ち出し、誰もが興味をもてるよう工夫を凝らしていたことから、市民全体の防災意識を高めることに寄与できたと評価できる。</p>	<p>「防災・減災」について、親しみやすい多くのイベント・企画を、参加者の皆さんで共に考え、協力して取り組まれた当事業の成果は非常に大きいと考えます。このような取組みが地域での防災意識を高め、草の根の防災につながっていくものと思います。今後も宝塚市の地域団体の防災・減災のロールモデルとして、行政や関係機関、団体と連携を深めながら事業を継続していただくことを期待します。</p>

No.	申込団体名	確定額 (円)	自己評価		評価	
			事業内容	効果	関係課意見	審査会意見
			<p>3. 防災・減災を話題にできる懇談会『えらいこっちゃ！でもだいじょうぶ』キャラバン 【実施時期】平成30年8月～平成31年1月 【内容】日常、普段の暮らしに「防災・減災」の意識を促す懇談会、話題提供活動、個人 の力が地域に欠かせないことを共有する場。 【実施場所】ぶらざこむ1登録グループ及び、当事者団体 【参加人員】約50人</p> <p>4. ワンコインチャリティーコンサート 【実施時期／場所】平成31年1月27日(日)／ぶらざこむ1 【内容】1部：社会福祉法人 洗心会のぞみ福祉作業所 施設長 森信也さんから作業所と ひとの復活、進化のあゆみ報告。 2部：宝塚アカデミー音楽団の協力を得て、チャリティーコンサートを開催。 東北や熊本などの復興状況や課題を知る機会としても活用。 被災地支援活動を継続している団体やコープこうべ宝塚第1地区活動本部も 展示等で参加。 【参加人員】約180人</p>	<p>3. 防災・減災を話題にできる懇談会『えらいこっちゃ！でもだいじょうぶ』キャラバン 日頃は「防災」をテーマにしているボランティアグループへの訪問を2回行った。 「今、地震が起きたら?!」という問いかけに、ご自身にとって一番必要な備えに 思いを馳せて頂いた。・どこで災害に遭うか分からないという気づきがあった・デイ サービスに行っている母のことを考えた。連絡方法を検討したい・自主防災会の 役員をしているが、身近なことから備えて行けば良いと感じた、等の感想があっ た。参加者の皆さんが「自分事」として災害を考え、その時を想像することで、「自 分にとっての備え」や「大切な人への備え」への実践に繋がると考えている。今後 も一人一人の備えが地域の備えになることも伝え、誰にも役目があるということへ の気づきに繋げていきたい。</p> <p>4. ワンコインチャリティーコンサート 東日本大震災被災地への復興支援を目的に開始した本コンサートの6回目を 開催。 第一部では8年目を迎えようとしている南三陸町の知的障害者通所施設「のぞ み福祉作業所」の所長を迎え、8年の歩みから築いてきた作業所の姿や、宝塚市 民へのメッセージを届けて頂いた。被災により失った多くの尊いものに報いるた め、被災前より進化した作業所の姿を示していく使命感を語られ、また、障害者施 設が災害に強くなる為には、日頃から地域の皆さんと繋がっておくことの重要性を 訴えられ、参加者の心に響いたと感じている。 第二部では市内でのボランティア演奏活動に熱心な「宝塚アカデミー音楽団」の協 力を得て迫力の演奏を楽しんだ。楽団の皆さんからは演奏の喜びや音楽の力が 皆の生きる力になるというメッセージを受け取ることが出来た。最後には手話サー クル連絡会の協力を得て「365日の紙飛行機」を参加者と共に手話で表現して、歌 い、「聴こえない人と音楽」という日常への気づきを得る機会とした。また、会場 では被災地支援活動を継続している他の団体やコープこうべの展示、物産販売等 も実施し、本コンサートが目的を同じくする団体を繋ぐ場としての役割も果たして いる。</p>		

No.	申込団体名	確定額 (円)	自己評価		評価	
			事業内容	効果	関係課意見	審査会意見
			<p>5.災害時要配慮者を含む多様な市民を交えた防災・減災活動の実践への協力 【実施時期】平成30年10月6日(土) 【内容】各地域や団体等での防災活動に災害時要配慮者を含む多様な市民を交えたものと なるよう、情報提供や関係機関の連携をサポート。地域での訓練実施の際には当該地域以外のまちづくり協議会、自治会等の見学にも対応し、他の地域での実践に繋げた。 【協力地域】宝塚第一小学校区まちづくり協議会</p> <p>6. 災害時要配慮者等の当事者団体と市民の交流会への参加 【実施時期/場所】平成31年2月22日(金)宝塚市役所 【内容】マイノリティグループ、シニア世代等立場の違う人々における災害リスクの認識や備えの工夫を市民と共有する話合いの場に協力参加。</p>	<p>5.災害時要配慮者を含む多様な市民を交えた防災・減災活動の実践への協力 宝塚第一小学校区まちづくり協議会主催の「避難及び避難所開設訓練」の実施に際し、 多様な市民の参加の実現に繋がる協力をした。具体的には宝塚ろうあ協会と宝塚中途難聴者会との協力により、それぞれの会員当事者を「校区外避難者」として避難所に受け入れる、という想定で訓練を組み立てた。受け入れに必要な手立てとして「情報の可視化」に取り組み、受付場所、避難所内の区分け、避難者数、避難所内のルール等の掲示に配慮した。また、段ボールベッドやテントの組立を共に作業することで筆談や手振りなどでのコミュニケーションの経験の場ともなった。ろうあ者とのコミュニケーションが初めての住民にとっては、住民同志のコミュニケーションと手話通訳による情報保障との違いを理解する機会ともなり、「災害」をテーマにすることで当事者の日常に触れる機会となったことは大変有意義であった。訓練内容には災害時要配慮者と共に避難するプログラムもあり、その実現には地域における住民と自治会、民生委員、社協地区センター等各関係者が協議する機会が必要で、あり、その関係性が訓練後も継続していくことができれば訓練の意義も高まっていくと考えている。</p> <p>6. 災害時要配慮者等の当事者団体と市民の交流会への参加 当会では2017年12月に開催した「交流会 みんなの声を聴いてみよう」にも見られるように、主にセルフヘルプグループの当事者の皆さんが日頃から災害についてどのような対策をされ、地域に望んでおられることなどを共有していくことの大切さを感じてきた。ひとたび災害が起こると、その時試されるのは、如何に、お互いのことを知り得て、相手の立場を想像し、寄り添っている情報を共有していたかという、それまでの関係性である。これは障害の有無、年齢、社会的な立場などに関わらず、日常の生活においてどなたにも必要であることを経験する為、多様な市民と行政各機関、中間支援組織、民間事業者等が「災害」というテーマで交流する場は大変有効だと考えている。今回、そのような交流会が男女共同参画課主催にて開催され、その場に参加して頂ける7つの当事者団体を当会から紹介することに協力し、交流会当日にも参加した。参加した当事者団体の皆さんからは自分たちのことを発信できる場としても、他を知る場としても大変有意義であったという感想が得られ、今後も多様な立場の市民や関係各機関による交流の場を継続していくことが、災害に強く、安心、安全な日常の為に、重要であり、そのことが「災害時要支援者制度」の実行性を高めていくことに繋がるのではないかと感じている。</p>		



No.	申込団体名	確定額 (円)	自己評価		評価	
			事業内容	効果	関係課意見	審査会意見
5	宝塚フラワー &コンサート	30,000	<p>基本構成としては、「花作りワークショップ」と「花と愛のコンサート」を開催し、花と音楽をとおしてきずなづくりを行った。</p> <p>「花作りワークショップ」では、老人ホームで実施し、子どもたちと親子、お年寄りが一緒に、コンサートで舞台を飾るペーパーフラワーを製作し、さらに、普段、音楽に馴染の薄い子どもたち、お年寄りを「コンサートに無料招待」した。花作りをとおして、子どもからお年寄りまでの幅広いきずなづくりを行った。なお、補助金金額が申請額より大幅削減されたために、開催回数、開催場所(無料提供)、対象者を縮小して目的を達成した。</p> <p>「花と愛のコンサート」では、2部構成とし、第1部は、「ロマンスがいっぱい」というタイトルで、古今東西の愛の詩とトロンボーン、クラリネットやピアノによる演奏、ダンスを披露した。第2部は、「一つの花が咲くように」と題して、星野富弘の「花の命」を題材にした詩画の世界を、歌と朗読で紹介した。</p> <p>実施内容は以下である。詳細は添付の「プログラムと写真集」をご覧ください。</p> <p>事業内容： 花作りワークショップ 花と愛のコンサート(2部構成)  実施時期： 1月19日、2月2日 2月11日(月、祝)14:00～16:00  場所： まどか園老人ホーム 宝塚バガホール  回数： 2回 1回  参加人員： スタッフ:3人、市民:約60人 出演者:10人 座席数:372席(ほぼ満席)</p> <p>招待・プレゼント:コンサートに無料招待 生花のブーケ</p> <p>コンサート実施後、会計処理、反省会(3月17日実施)などのために、完了日を、3月17日としました。</p>	<p>(1)「花作りワークショップ」は、老人ホームで実施したことにより、子どもたちと父兄とお年寄りなどが一緒になり、コンサートで舞台を飾るペーパーフラワーを製作し、花作りをとおして、「幅広いきずなづくり」が出来た。更に、普段、音楽に馴染の薄い子どもたち、お年寄りを「コンサートに無料招待」し、音楽に慣れ親しんでいたことが出来た。さらに舞台装置としての花作りは、子どもたちに「社会参加意識」を芽生えさせることも出来た。</p> <p>(2)「花と愛のコンサート」では、「楽器演奏とダンス」、「詩の朗読と歌・芝居」の2部構成とし、音楽や歌に触れ、子どもからお年寄りまでの幅広い強い「きずな形成の喜び」を実感していただき、コンサートに参加された満足感も、一層膨らむことが期待できる。</p> <p>(3)コンサートで豊かな音楽にふれ、宝塚の素敵な「まちづくりの担い手、更に幅広いリーダ」にもなってもらえることが期待できる。また、このようなコンサート事業は、市民の皆様にあわただしい日常から少し離れ、花を慈しみ音楽を楽しむことによって、「心の安らぎと、平和を思う心」も育まれる。</p> <p>(4)バレンタインに、花を贈る習慣を広めることにより、宝塚の地場産業「植木園芸、花」業の「経済的活性化」も期待できる。</p> <p>(5)花業界の「フラワーバレンタイン推進キャンペーン」もあり、薔薇園植物場様のご協力により、ご来場の皆様に花のプレゼントをご用意いただけた。この生花のブーケはコンサートの記念として「各家庭の団楽」でも美しく咲き、大変喜ばれた。</p>	<p>(文化政策課)</p> <p>花と音楽を組み合わせたコンサートで、市民にクラシック音楽に触れてもらうと共に、事前のワークショップで子どもたちが当日舞台上で用いる飾りの作成を体験することは、文化芸術による心豊かな市民生活の向上へのきずなづくりになったと考えます。</p> <p>また、ワークショップ参加者をコンサートへ無料招待したことは、普段音楽に馴染みのない方が音楽を親しみむ良い機会になったと思います。</p> <p>しかし入場料金が安価とは言いがたいことや、老若男女幅広い来場者を獲得する環境作りがされていたとは言いがたい、料金設定等に工夫が必要であると考えます。</p>	<p>「花と音楽」をテーマとした、宝塚のイメージに即した事業内容であることを評価します。しかし、入場料および入場者数に課題があり、自主事業として十分に開催できるように考えます。今後はよりきずなづくりの趣旨に合致するよう、幅広い市民が参加可能な音楽コンサートとなる仕組みの検討を期待します。</p>
6	宝塚景観まち あるき会	300,000	<p>①ガイドマップを携えた市民によるまちあるき会開催……</p> <p>昨年度作成した「宝塚景観まちあるきガイドマップ」を携え、コースの主な特徴と景観的見どころを解説しながら年度内に9回(土曜コース、水曜コースに分けて)実施した。募集定員は50名で申込の結果、土曜コース20名、水曜コース34名が登録した。</p> <p>第1回(6/9、6/13)48名、第2回(7/11、7/14)34名、第3回(9/8、9/12)23名、第4回(10/10、10/13)33名、第5回(11/10、11/14)33名、第6回(12/8、12/12)33名、第7回(1/16、1/17)28名、第8回(2/9、2/13)27名、第9回(3/9、3/13)28名とそれぞれの回に会のスタッフが5～6名参加し、各回約40名が活動した。延べ約350名が参加した。</p> <p>②私のお勧め宝塚の景観ポイント募集と投票会の実施……</p> <p>9月18日～12月末日まで歴史的景観、まちなみ景観、自然景観、生活景観、プライベート景観、こどもの目を見た宝塚の景観の6分野でスケッチポイントと景観を募集した。その結果、103点の応募があり、2月25日～3月1日に市役所中央ホールで展示し広く市民他を対象に投票会を実施し、各分野第1位を選挙とした。但し生活景観以下の分野の応募数が少なく一つの分野としてとりまとめ入選作を決定した。また会員の推薦により入選作以外に宝塚の特徴をよりよく表現し、景観ポイントとしてもふさわしい作品について特別入選作とした。</p> <p>③宝塚景観まちあるきガイドマップ2019編集・制作・発刊と無償配布……</p> <p>昨年度制作したガイドマップの一部修正追加と新たに地域の歴史・文化・自然などの情報を追加し散策やまちあるきガイドマップとして充実させた。また3/24のフォーラムで参加者に無償配布を行った。</p> <p>④3月24日に「第2回宝塚景観フォーラム」を開催し広く市民や行政関係者に宝塚の景観魅力アップをアピールした。兵庫県景観形成室から県下の景観行政の現状について基調講演を行っていただき、入選作の表彰と入選者他パネラーによる意見交換会を実施した。</p>	<p>①宝塚景観ガイドマップの内容を現地で確認しながら解説することにより、宝塚の景観特性や地形地勢の上で積み重ねられてきた歴史文化、自然環境があいまって景観が創られてきたことを理解いただき、今後のまちづくりへの効果が期待できる。</p> <p>②「景観」という切り口でどどん屋外に出ていき、新たな市民交流の場づくりが生まれた。</p> <p>③行政にとってもなかなか市民になじみにくい「景観」について、今回のまちあるきやフォーラムを通じて市民の主体的な関わりが必要不可欠であることをアピールできた。</p> <p>④宝塚市都市計画課との協働的取り組みによりこの分野に限らず今後の市民活動の在り方に示唆となる成果があった。</p> <p>⑤まちあるき参加者の中から会への参加希望者が10数名現れ今後の活動強化が図られる。</p>	<p>(都市計画課)</p> <p>H29年度に引き続き活動していただきました。</p> <p>H30年度は、新たな会員を募集し、昨年完成させた「宝塚景観まち歩きガイドマップ」で紹介したお勧めの景観ポイントを巡るまち歩きツアーを開催し、実際に体感していただくことで宝塚の景観の魅力をアピールしていただきました。また、今年度はまちあるきガイドマップの改訂作業を行い「宝塚景観まち歩きガイドマップ2019」として、各地区での言い伝えや民話、街ができた経緯など、更に詳しい説明を加えることで、これまで「景観」に興味のなかった方にも手に取っていただき、読み物としても楽しめるような冊子になるよう構成も工夫されました。</p> <p>更に、今年度はお勧めの景観写真やイラストを募集し、市民投票により優秀作品を選び、年度末に開催したフォーラムでは表彰式を兼ねた意見交換会を開催し、宝塚の景観を市内外に大いにアピールしていただけたと感じています。今後も引き続き様々なアプローチを通じて、これまで「景観」に関心の無かった方々にも宝塚の景観を発信していただくことを期待しています。</p>	<p>景観の観点で宝塚市の魅力を掘り起こし、冊子やマップにまとめることにより、市民に宝塚への愛着を深める独創的な企画として評価します。今後は活動を継続し、行政と連携した対外的な発信にも活動を広げることを期待します。</p>

No.	申込団体名	確定額 (円)	自己評価		評価	
			事業内容	効果	関係課意見	審査会意見
7	宝塚にしたに 里山ラボ	300,000	<p>●景観資源発掘のための「里山の遊び方と学び」の冊子制作事業</p> <p>①「里山の遊び方と学び」の冊子制作 (冊子名:「にしたにあそび」note～木も土も葉もみんなともだち!～) 文だけでなく、マップ紹介・人が里山で遊び学ぶ姿の写真・自由記入可能なノート部分によって、子どもたちでも容易にメモを取りながら、宝塚西谷の山里を、遊びを通して体験的に学び考えることができる冊子を制作 ・実施期間:平成30年4月～平成31年3月29日まで ・場所:西谷地域(冊子制作に関する取材及び写真撮影) ・活動日数:30日以上(打合せ、撮影、事前準備等を含む) ・配布:3,000部印刷、 希望者及び宝塚市内公共施設、市内小学校、市内イベント等で順次配布を実施 ※より多くの子ども達に西谷や景観に興味を持ってもらいたいとの思いで、西谷地域に校外学習で訪れる小学校の該当学年の全生徒に配布を希望、現在調整中。</p> <p>②景観資源発掘のための展示(展示会の開催と地域イベントでの展示) ・実施期間:地域イベント 平成30年10月29日、1月12日、2月24日 展示会 平成31年2月25日～3月1日 ・場所:地域イベント 西谷地域(宝塚自然の家等) 展示会 宝塚市役所市民ホール ・回数:地域イベント 3回 展示会 1回 ・参加人数:約1,000人来場(展示会及び地域イベントでの展示) ・詳細:子ども・親子向けの西谷でのイベントで西谷の景観展示を実施 展示会での展示実施。撮影に用いたあそびの実物展示及びあそび風景写真の展示</p> <p>③西谷地域の情報や冊子の制作過程をホームページやSNS等で発信 ・実施期間:平成30年4月～平成31年3月末まで ・場所:西谷地域 ・回数:10回以上 ・詳細:より広く、多くの方に年間を通して西谷や冊子に親しみや関心を持っていただけるよう、ホームページやSNS(facebook、Instagram 等)を使用し、西谷の景観情報と冊子制作の過程の情報を発信。 特に、写真投稿に特化しているSNSのInstagramを利用、景観投稿によりフォロワー数が増加。ハッシュタグを使用することで、検索上位に上がるように工夫。 来年度以降はさらにWebでの発信に注力することで、景観発掘の機会の創出を拡大させる。</p>	<p>本事業を実施したことにより、西谷の魅力である、これまで守り受け継がれてきた自然や里山の景観、文化をより多くの方に伝えることができたと考えています。 本事業の冊子では、景観や風景だけを紹介するのではなく、西谷の山里の景観の中で子どもや大人が遊び学ぶ姿を紹介しました。里山の中で遊び学ぶ姿を紹介することで、景観をより具体的にイメージでき、里山の景観を身近に感じ、読者の興味や関心を引き立て、西谷の景観へのより一層の理解と景観の発掘に繋がったと思っています。特に、本事業の冊子のコンセプトである、「景観とあそび」を軸に冊子を制作したことによって、景観に関心のない、新たな層である子育て世代や子どもを中心に、普段馴染みのない景観に、わかりやすく、より親しみやすく触れる機会を提供できたと考えています。 景観は身近なものであること、愛着や親しみを持つことで、その景観に対する考え方が変わり、かけがえのないものであること、また守りたいと思えるような動機づけの契機になったのではないかと考えています。 また、西谷地域の課題でもある、情報の発信や誘致という面に置いて、WebやSNS、そして紙媒体である冊子を制作することで、広く西谷地域の魅力を周知できたのではないかと思います。特に、デザイン性や機能性を重視し、発信・発行することで、幅広い世代に注目して頂ける、手にとって頂ける、見て頂け、より多くの効果が期待できます。 部数も4,000部発行できたことと行政の方のご協力による配布の拡大で、さらなる効果が期待できます。 展示会では、他の団体様と共同開催することができ、ターゲット層が違うことで、相乗効果もあったと思っています。 これからの宝塚を担う子どもたちに、この冊子を通し、遊びという楽しみを通して、景観に対する愛着や親しみを育める機会を創出できたことは、なにより大きな成果であると思っています。 団体としても、この事業を通して、行政の方々のご協力を得、リピーターや購読者を獲得し、成長することができました。現在、発行冊子は4冊、メール配信会員は約100名、イベント参加者は延べ1,000人を超えました。西谷地域の可能性と需要を実感するとともに、さらなる参加者や読者の拡大を目指していきたいと思っています。 今後は、さらに色々な媒体やコンセプトを用い、より多くの方に景観に対して親しみを持って頂けるように活動を広げていきたいと思っています。</p>	<p>(都市計画課) 30代前後の若い世代を中心としたメンバーの日常生活の中から生まれたアイデアを上手く生かし、子供を持つ親の目線から、子供向けのイベントや親子で参加できる景観イベントを、西谷地域を中心に開催していただきました。景観学習という堅苦しいものではなく、イベントに参加する中で、小さな子供でも楽しみながら自然に宝塚の良さを知り、感じ、興味を持ち、守って行こうという気持ちが生まれるような活動は大変素晴らしいと思います。また、西谷の自然を生かし、自然の材料を使った昔ながらのおもちゃや作りや遊びについて紹介した「にしたにあそびnote」も作成されました。これらの活動は、子供達にとっても大変貴重な体験だと思いますし、楽しみながら学べるとても良い機会だと思います。今後も引き続き、西谷の良さ、自然の大切さを子供達と一緒に活動し、ゆくゆくは子供目線で西谷の良さを発見、発信していただくような活動に繋がることを期待しています。</p>	<p>若い世代の皆さんが中心となって、「里山」の魅力を発掘し、幅広い世代が参加できるイベントやスタイリッシュな冊子を通じて、西谷の知名度を向上させている貢献度を大いに評価します。今後もさらなるアイデアで西谷の魅力を発掘・発信し、「新たな西谷ファン」が増えていくことを期待します。</p>

No.	申込団体名	確定額 (円)	自己評価		評価	
			事業内容	効果	関係課意見	審査会意見
8	中山五月台自治会	10,000	<p>① 非常食に関する講習、試食(おいしく食べられる非常食の工夫の仕方を学び、実際に参加者のみなさんと試食をしました)。  ② 防災に関するDVD「となりの防災家族」の鑑賞。  ③ クロスロードゲーム</p>	<p>防災学習会の参加はきずなの家の利用者、五月台自治会報での参加呼びかけの応募者に加え、自治会役員、五月会老人クラブ会長、自主防災会会長、こうぼうずのメンバー、中山台コミュニティ生活福祉部門のメンバー等も参加しました。</p> <p>クロスロードゲームは、例えば「避難所に3000人います。食糧が2000食来ました。あなたは食事担当です。2000食をすぐに配りますか」という設問に、参加者それぞれがyes、noで答え、その理由を述べあいました。その中で「3000人は家族としたら、2000食を3000人に分ける」と話す人がおり、それに賛同する人が多くいました。仲間意識を確認したことになります。</p> <p>こういうゲームを積み重ねておくと実際の災害時、避難所運営などに大変役立つと思います。</p> <p>日頃、顔を合わせることのない地域の様々な人達が交流できました。大きな成果です。こうした交流は、我々が目指している「皆が集う、皆が交わる」ことになり、それによって災害時に備える新たな学習会、防災訓練などの提案がしやすくなります。</p>	<p>(市民協働推進課)  災害時でも非常食をおいしく食べられる講習やゲームを使った防災学習など、工夫して、参加者が楽しみながら防災意識を高めることができました。また、自治会の範囲を越えた多くの住民団体から参加がありました。参加者同士の交流の機会や場となり、地域のきずなづくりに繋がったと考えます。</p>	<p>防災について啓蒙することは非常に重要だと考えます。防災を切り口に、ゲームやDVD鑑賞など、楽しみながら気軽に参加できる企画により、地域のつながりづくりを实践されたいことを評価します。今後は、行政とも協働しながら、モデルとして市内へ普及することが必要であると考えます。</p>